



鳥向婁哉

眞教寶會開設趣旨

4207



114
A 4146
1



眞教寶會開設ノ趣旨

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

月昌盛ニ赴キ邦國ノ形状全ク其面ヲ革ムルニ
至リ之カ爲メニ法界萬千ノ事物モ概テ多少ノ
感化變動ヲ被テサルモノアラス特リ眞教ノ本
體ニ至リテハ少シモ揺動スル所ナク法燈智燭
ハ長ク上界ノ雲ニ耀キ慈航寶筏ハ曾テ塵海ノ
浪ニ漾ハズ千古ノ久シキ依然トシテ光明廣大
ノ徳ヲ現ハセリ蓋シ教法ハ玄妙高遠眞カニ濁

鳥飼樓藏

區内本館

却迷途ノ表ニ存シ人為ノ及ハサル境域ニ在ル
ヲ以テ如何ナル世態ノ變動ニ逢フモ動カス
能ハサルモノアルニ非スヤ

然リト雖モ布教濟衆ノ方便ニ至リテハ必ヤ世
態ノ傾向ト共ニ活動セサル可ラス抑我々教門
ノ本旨ハ現世修身ノ要旨ヲ知ラシメ未來靈魂
ノ歸着ヲ示シ或ハ報恩ノ義務ヲ諭シ或ハ王法
ノ趣旨ヲ説キ平時ニ於テハ疾病ヲ養ヒ貧困ヲ
恤ミ廢人ヲ助ケ罪囚ヲ誨ハ水火震災ニハ資ヲ

散シテ賑恤シ兵役飢饉ニハ財ヲ捐テ、救濟ス
ル等濟度ノ方慈惠ノ道固ヨリ一ニシテ足ラス
ト雖モ要スルニ能ク世態推遷ノ活機ニ應シ參
スルニ妙諦ヲ以テスルノミ

顧ミテ現在世上ノ實況ヲ察スルニ時運循環ノ
致ス所トハ云ハ事物ノ改進餘リニ迅速ナリシ
ヨリ連年ノ交易出入相當^{又テ}金銀ハ頻リニ欠
乏ヲ告ケ物價ハ愈騰貴ヲ訴ハ衆生ノ職業モ殆
ント不如意ノ状アラントス爰ニ於テ世上ノ論

議ハ概子罪ヲ紙幣、多キニ歸シ其消却ヲ希望
スルモノ、如シ持リ世論ノ之ヲ希望スルノミ
ナラス此度朝廷ノ布告セラレシ所ニ因レハ朝
廷ノ財政モ其針路ヲ紙幣消却ノ一方ニ定メラ
レタルカ如クナリ

サレト此金銀ノ欠乏シ物價ノ騰貴スルハ必
シモ紙幣ノ多キニ因ルトモ定メ難ケレト夫等
ノ事ハ宗門ノ拘ハル所ニモ非レハ措テ論セス
唯其世上ノ論議ヲシテ筆舌ノ上ニ止ララシメ

ハ衆生ノ職業ニ迄事實影響ヲ及ホスハ非サ
ルヘキナレト此論議ノ向ノ所ハ竟ニ朝廷財政
ノ針路トナリ果テハ衆生ノ方向トナルニ至リ
テハ我カ宗門ニモ關係ヲ及ホスハ決シテ少小
ニ非ス如何ニトナレハ其論議ノ當否得失ハ姑
ク置キテ眼前衆生ノ工事商業等衰廢ノ現相ヲ
見ルニ忍ヒシヤ就中工業ノ如キハ的面ニ其害
ヲ被ムルハ豈痛ハシキナラズヤ
元來我國ニテハ資本ト云ヘルモノ、乏キヨリ

金銀ノ利足モ亦甚貴ク加之融通ノ便利モ未十分ナラサルカ為ノ一事ノ資金モ輒モスレハ鉅大ノ額ヲ要スルナト何レモ國民カ獨自一己ノ起業ヲハ成シ能ハサル因縁ナリサレハ我朝廷ニハ早クモ此ニ着眼セラレ苟モ御國ノ益トアルモノハ事ノ大小ニ拘ハラズ低キ利足ヲ以テ其資本ヲ貸給シ猶種々ニ陽護冥助ノ法ヲ設ケラレシヲ以テ一切ノ工事商業モ今コソ興起ノ時ヲ得シニ乍ニシテ斯ル財政ノ更革ニ逢ヒ

テ世上ノ寶貨ハ日々ニ匱乏ヲ加ヘ利足ハ益々騰昂ヲ致シ貨財融通ノ道ハ一時ニ梗塞ノ状ヲ現ハシ之カ為メニ新タニ起興セントスル者ハ姑ク其業ヲ止メ其既ニ起業セシモノモ漸クニ其規模ヲ縮メ或ハ全ク中絶スル者モ之レ有ルカ如ク誠ニ歎カハシキ事ナラスヤ抑法海ニ浮沈スル衆生ノ中ニモ細民ノ生ヲ寄スルハ多クハ工業ニ在ルナレハ工業ノ衰廢スル片ハ是輩忽チ其業ヲ失ヒ相率井テ遊手無

頼ノ徒ニ入ラサルヲ得ス恒産無キモノ如何テ
恒心アルハキヤ久シカラズシテ外道邪山ニ踏
入ラシテ知ルハキナリ然ラサルモ細民凍飢ノ
苦海ニ陥没スル如キ結果アルニ至テハ我カ宗
徒モ安クニ弘教ノ旨ヲ達スルヲ得ンヤ
蓋シ今日財政困難ノ現相ハ全ク前日國歩速進
ノ反照ナレハ苟モ國民タラシムノハ此一時ノ
艱難ヲ凌キ益々工業ヲ起シ愈々通商ヲ盛ニシ
シ以テ富國ノ基ヲ固メ王法教法ト共ニ廣布遐

宣スルヲ得テ一切安心ノ地位ヲ定メサル可カ
ラス是レ衆生ニ在リテハ固ヨリ報恩ノ務メニ
シテ我カ徒ニ於テモ誠ニ護國ノ旨ナルベシ
因リテ茲ニ一法ヲ設ケ專ラ工業ノ為メニ便門
ヲ開キ細民将来ノ苦患ヲ除カントス現ニ我カ
門徒百有餘萬戸アリ皆常ニ我カ真教ノ皇張ヲ
希ヒ布教ノ資財ヲ納メント願フモノ蓋シ一日
ニ非ス今此教界ノ伸縮ニモ關スハキ時機ニ逢
フヲ以テ其布教ニ供スハキ資財ヲ醱集シテ別

ニ壹百萬圓ノ寶會ヲ開設シ之ヲ以テ諸般工事
ノ興起ヲ誘導シ衰替ヲ挽回シ細民ヲシテ衣食
ヲ資ルノ地ヲ失ハサラシメハ門徒多年ノ素願
モ空シカラズ益々布教ノ境域ヲ擴充スルヲ得
ニ顧フニ殖産起業ノ法ハ世人ノ誘掖既ニ少シ
トセス運資通貨ノ事ハ銀行ノ負擔固ヨリ其所
タリ故ニ我カ寶會ニ於テハ專ラ拓地其他ノ工
業ニ就テ低利ト優貸ノ方法ヲ以テ其資財ヲ供
給スルヲ旨トスルシ苟モ法界ニ在リテ我ト感

區
兩
村
産

想ト同フシ我ト苦惱ヲ共ニシテ護國濟衆ノ念
アル者ハ其宗派ノ異同ヲ問ハズ相共ニ来リテ
我カ微志ヲ賛成シ弘濟ノ本旨ヲ達セラレシ
ヲ希フノミ

鳥
向
樓
成

眞教寶會創立要旨

第一條

本會ノ名目ハ眞教寶會ト稱スベシ

第二條

別冊設立要旨ニ詳述セル如ク本會ハ專ラ勸工
殖産ノ事業ヲ誘掖シ細民産業ノ基礎ヲ鞏固ナ
ラシメントテ目的トス

第三條

本會ノ資本金ハ壹百萬圓ト定メ一株ヲ五拾圓

トシ總株數ヲ貳萬株ト定ム

但シ募集方法ハ別冊ニ記ス

第四條

本會ノ本局ハ西京ニ設置シ支局ハ各道各地ニ
配置スベシ

營業科目

開拓貸附金

第一項 此貸附法ハ凡ソ開墾事業ヲ發起シ之ヲ
 請求スルモノアルハ其目的方法ノ如
 何ヲ推究シ成立ノ見込アリト認ムルモ
 ノハ其實地ニ就テ之ヲ查檢シ其地方廳
 ニ照會シ起業中ノ保監及ヒ起業者ノ身
 元保証等ヲ請ヒ然ル後其開墾地所及一
 切ノ器械ヲ抵當トシテ其金額ヲ貸付ク

ルモノトス

第二項 此貸附金ハ滿五ヶ年ヲ以テ期限ト定メ
期限内ハ年壹割貳歩ノ割合ヲ以テ利子
ヲ收メシメ内八歩ヲ以テ元資金ノ利子
ニ充テ残り四歩ヲ元資金ノ償却ニ充テ
漸次遞減スルモノトス

第三項 滿期ニ至レハ結算ヲナシ元資殘金ヲ以
テ新ニ通常ノ貸付金ニ引直シ其期限ノ
長短利子ノ割合等ハ爾時工業ノ景状ヲ

審査シ其適宜ヲ計リ起業者ト協議ノ上
更ニ之ヲ約定スベシ

第四項 期限内ハ起業者ヲシテ毎月工業ノ實際
報告表ヲ製シテ其景況ヲ報示セシムベ
シ

第五項 萬一事業成效ノ見込ナク半途ニシテ廢
業スル事アルキハ抵當ノ地所及器械等
ハ悉皆之ヲ賣却シ貸附金ノ決算ヲナシ
其不足金ハ起業者ヲシテ悉皆償辨セシ

ムベシ

工業貸附金

第一項 此貸付法モ前條開拓貸付金ト同ク諸工業ヲ起興スル者ヨリ請求アル片苟モ其事業ノ輸出品ノ増進若シクハ輸入品ノ防遏ニ裨益アリト認ムルモノハ其實際ニ就テ審案精査ヲ遂ケ其地方廳ニ照會シ起業中ノ保監及起業者ノ身元保証ヲ請ヒ然ル後其工場及ヒ一切ノ器械等ヲ

抵當トシテ其金額ヲ貸附ケルモノトス

第二項 此貸付金ハ滿三ケ年ヲ以テ期限トシ期

限内ハ年壹割貳歩ノ割合ヲ以テ利子ヲ

收シノ内八歩ヲ元資金ノ利子ニ充テ殘

リ四歩ヲ元資金ノ償却ニ充テ漸次遞減

スルモノトス

第三項 滿期ニ至レハ結算ヲナシ元資殘金ヲ以

テ新ニ通常ノ貸附金ニ引直シ其期限ノ

長短利子ノ割合等ハ爾時工業ノ景状ヲ

審査シ其適宜ヲ計リ起業者ト協議ノ上
更ニ之ヲ約定スベシ

第四項 期限中ハ起業者ヲシテ毎月工業實際報
告表ヲ製シテ其景況ヲ報示セシムベシ

第五項 萬一事業成效ノ見込ナク半途ニシテ廢
業スルトアル片ハ抵當ノ工場器械等ハ
悉皆之ヲ賣却シ貸附金ノ決算ヲナシ其
不足金ハ起業者ヲシテ悉皆償還セシム
ベシ

蓄財勸誘法

例言

從來我邦細民ノ習俗タル概子自ラ貧賤ノ
地位ニ安ニシ其生活ノ有様實ニ今日アル
ヲ知テ明日アルヲ知ラス職工傭丁ノ如キ
手ニ宿錢ヲ有セサルヲ以テ快活トナシ儕
輩ニ誇ルノ風アルニ至レリ世ノ有志者往
往之ヲ慨歎シ是等ノ輩ヲ勸化センガ為メ
ニ種々ノ方法ヲ施設スルモノアリト雖モ

未夕其好結果ヲ得ルモノ希ナリ畢竟智識
 未夕聞ケス其地位ノ未夕其度ニ至ラザル
 ヲ以テ之ニ責ムルニ輒ニ道義高尚ノ事ヲ
 以テスベカラス故ニ是輩ヲシテ自ラ蓄財
 成産ノ念ヲ起サシメントスルハ實ニ至難
 ノ事ト云フベシ今是輩ヲ誘導センニハ姑
 ク一ノ善方便ヲ設ケ之ヲシテ勢ノ迫ル所
 トナリテ已ムヲ得ス自ラ其場合ニ至ルノ
 道ヲ以テセザルベカラス一タビ財ヲ蓄ヘ

富ヲ得セシメ而ル後之ヲ教フルニ道義ヲ
 以テセバ自ラ其習風ヲ改良シ其地位ヲ上
 進セシムルノ好結果ヲ見ルニ至ラン因テ
 茲ニ一ノ貸付金ヲ設ケ是等ノ細民ヲシテ
 先ツ其負債ヲ起サシメ勉メテ之ヲ償還ス
 ルノ後遂ニ若干ノ餘財ヲ贏シ得ルノ便利
 ヲ與ヘント欲ス其方法譬ヘバ職人工夫等
 ノ此貸附金ヲ依頼センコトヲ申込ムモノア
 ルハ先ツ本人ノ月々償入シ得ヘキ金額

ヲ問ヒ且其目的ハ凡何ケ年ニシテ幾許ノ
 貯金ヲ得ニテヲ欲スルヤヲ問ヒ而ル後其
 月々償入スルキ金額ニ照シ左項ノ定則中
 適當ノ公債高即償付ノ金額ヲ定メ本會ニ
 於テ其金額ヲ立替ヘ一ツノ利附公債証書
 ヲ買入レシメ直ニ此公債ヲ抵當トナシ右
 ノ買入代金ヲ償付金トナシ毎月定約セル
 金額ヲ償入セシメ政府ヨリ利金下附ノ時
 ニ至リテ償付金ノ利子ヲ計算シ差引殘金

ハ之ヲ償付元金ノ内ニ償入セシメ遂ニ右
 ノ負債金額ヲ償還シ了ハルニ至リテ抵當
 ニ入レ置タル公債証書ハ全ク本人ノ所有
 トナルナリ但シ月々償入金額ヲ定メタル
 ハ其目安ヲ立ル為メナレハ必ス此定額ヨ
 リ少ナカルベカラス畢竟本人ノ勉勵ニ因
 リ其定額ヨリ少シニテモ餘分ノ金員ヲ償
 入スル片ハ隨テ其公債ヲ贏シ得ルノ年月
 モ短縮シ早ク其目的ヲ達シ得ルノ理合ナ

レバ月々餘分ノ殘金アルカ又ハ臨時ノ入
手金アル片ハ務メテ之ヲ償入金ニ加ヘ可
成丈早ク償還シ了ハラントテ務メシムハ
キナリ

第一項 公債証書ハ利付公債ナレバ種類ヲ問ハ

ズ本人ノ望次第抵當トナスゾ得ヘシ

第二項 貸付金額ハ其抵當トナスゾキ公債証書

ノ買入代價ノ儘貸付金トナスゾシ

第三項 買入レタル公債証書ハ直ニ本人ノ記名

ニ書改ムベシ

第四項 償入金ノ目安高ハ公債証書ノ種類ニ因

リテ差等アリト雖モ七分金祿公債高百

圓ノ所有主タラント望ムモノハ毎月凡

ソ貳圓以上ノ金額ヲ償入スベシ

第五項 此貸附金ノ利子ハ年壹割貳歩ト定ム

第六項 政府ヨリ下付ノ利金ハ本會ニテ受取リ

此時貸付金ノ利子ヲ差引キ殘金ハ之ヲ

元金ノ内ニ償入セシメ而シテ償入ノ差引

元金残高ハ更ニ之ヲ翌月ニ付出スベシ
第七項 若シ已ムヲ得サル事故アリ半途ニシテ
償入金ヲ納ムルヲ得ス且既ニ償入セル
金額ヲモ受戻サンテヲ求ムルモノアル
中ハ直ニ其抵當公債ヲ賣却シ差引決算
ヲナシ残余ヲ本人ニ返戻スベシ

貯金預リ

第一項 貯金預リハ一定貯金ト不定貯金ノ二法
ニ分ツ一定貯金トハ月々付托ノ金額ヲ

定メ付托ノ年限ヲ定メ其年限迄利倍増
殖スルモノヲ云フ不定貯金ハ付托ノ金
額ヲ定メス付托ノ年限ヲ定メス餘贏ア
レバ隨時付托スルヲ得ルモノヲ云フ其
詳細ハ別ニアリ

公債証書保護預リ及利金立換法

例言

凡ソ生計ノ資産ト為シ安全ノ利益ヲ收入
スベキモノハ公債証書ニ若クモノアラス

是ヲ以テ學校ノ維持金ナリ子弟ノ學資金
 ナリ養老金ナリ鰥寡孤獨ノ貯金ナリ凡ソ
 金利ヲ以テ生計ヲ營ムモノハ華士族ヲ始
 メトシ皆公債証書ニ依頼セサルハナシ斯
 ク安全ナル寶物ナレモ亦之ニ隨フノ患害
 不便ナキ能ハス其ノ患害ナルモノハ世上
 ノ猾奴動モスレハ鰥寡孤獨ヲ欺騙シ姦策
 ヲ以テ其公債ヲ掠奪シ之カ為メ一朝ニシ
 テ永世ノ資産ヲ失フモノ世上其例少ナカ

ラス是寶ニ歎スヘキノ一患害ナリ其不便
 ナルモノハ公債利金ノ下付ハ概子年二回
 ニ過キササルヲ以テ一向ニ公債ノ利子ニ頼
 テ生計ヲ立ツルモノハ其月費ノ支出ニ差
 支ユルヲ以テ已ムヲ得ス往々高利ノ借入
 金ヲナシ一時ノ急需ニ充ツルヲ以テ少額
 ノ歳入中看スニ多分ノ出費ヲナシ出入相
 償ハサルニ至ルノ類少ナカラス是亦一遺
 憾ト云ハサルヲ得ズ今此輩ノ便利ニ供ヘ

ンカ為ノ此公債証書保護預リ及利金立換
法ヲ設ケ以テ此患害ト不便トヲ除却セン
ト欲ス其方法左ノ如シ

第一項

公債証書保護預リ 公債証書ハ種類ニ拘

ハラス多寡ヲ問ハズ之ヲ預リ保護預リ

証書ヲ交附スベシ

但シ保護預リ証書ヲ賣買受渡シ又
ハ質入書入トナスヲ得ス

第二項

保護預ケノ公債ハ本人ノ入用アレハ何

時ニテモ引出スヲ自由ナリト雖若シ其
証書ニ付本會ニ於テ利金ノ立換金アル
片ハ其元利ヲ償還スルニ非サレハ引出
スヲ得サルベシ

第三項

利金立換 公債保護預ケ中毎月其公債ノ

高ニ當ル利金ヲ得シヲ要スルモノハ
ハ其ノ公債ヲ抵當トシテ毎月之ヲ立換
貸渡シ置キ政府ヨリ利金下附ノ時ニ至
リ本會ニ於テ代理受收シ其立換置キタ

ル貸金高ヲ差引キ了リ別ニ右貸金高ニ
付年壹割貳歩ノ利子ヲ収メシムベシ

巡迴手形

例言

我門徒ノ毎年本山ニ參詣スルモノ其幾萬
人ナルヲ知ラス然ルニ此輩ヨリ本山ニ寄
進スル金員若シクハ旅費金等皆ナ現貨ヲ
懷ニシ旅行スルヲ以テ往々盜難若シクハ
遺失ノ憂ナキ能ハス實ニ參詣者ノ一不便

ト云フべシ依テ今是輩ノ便ニ供センカ為
メ左ノ雛形ノ如キ巡迴為換手形ナルモノ
ヲ發付シ門徒ノ旅行者ヲシテ永ク危險ヲ
免レ安穩往來スルヲ得セシメテテテ欲ス
ルナリ

雛形

支局ハ各道各地ニ設クルト雖
モ茲ニハ東海道ヲ以テ其例ヲ
示ス

區町村

表面

第何号	巡迴手形
一金百圓也	
右之金額儘ニ預リ申候御入用ノ節ハ	
裏面ニ記載致候各支局ニ於テ何程	
ニテ御渡シ可申候也	
真教寶會	
年月日	東京支局
何ノ誰殿	

裏面

受取人	金額	年月日
横濱支局		
小田原支局		
静岡支局		
名古屋支局		
西京支局		
大坂支局		
神戸支局		

此手形ハ例ハ東京ノ門徒東海道ヲ經テ
西京本山ニ參詣スルニ付百圓ノ金員ヲ持
參セント欲スル片ハ其現金ヲ東京本會支
局ニ振込ニ此手形ヲ受取り之ヲ携帶シ道
中各驛ノ支局ニ於テ入用丈ケノ金員ヲ裏
書シ随意ニ受取ルヲ得テ若シ又中途
ヨリ他ノ街道ハ轉迴セント欲スル片ハ其
中途ノ支局ニテ此手形ノ書換ヲ請ヒ之ヲ
携帶シ前ノ如ク到ル處ノ支局ニ於テ隨意

鳥飼妻茂

A blank ledger page with a red border and ten vertical columns. The columns are of varying widths, with the outermost columns being the widest. The page is otherwise empty of text or markings.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

區
兩
柱
庸

